

## 授業におけるインターネットの使用方法

兵庫県赤穂郡上郡町立上郡中学校英語科

片山 郁彦



### 学校と地域の概要

上郡中学校は兵庫県と岡山県との県境に近い所に位置する上郡町の唯一の中学校である。生徒数は700名で近郊では部活動が活発なことでよく知られている。特に全国的に知られているのが剣道部である。また近頃ではホームステイ事業やインターネットを利用した英語の授業の創造ということでも近郊の学校では知られるようになってきた。英語科は毎年1回、自主公開授業を行い、今年で13回を数えている。本紙ではTeam-Teachingで行うインターネットを取り入れた実践を紹介したい。

### インターネットを使うまでの経過

平成6年に上郡町教育委員会がアメリカ合衆国・ワシントン州においてホームステイプログラムをスタートさせた時、受け入れ先のホストファミリーに、たまたま地元の Coweeman 中学校のコンピュータの担当者がいらした。その方と実際に会い、教育や政治、経済、趣味などについてお互いの意見を交換しているうちに意気投合し、日本の中学生とアメリカの中学生を、インターネットを通じて交流させようという話がもちあがった。しかしその当時はまだ、日本の学校でインターネットを使って英語の授業をしている所は皆無に近く、全く手探りの出発であった。言い換えれば、インターネットの使用がようやく注目を集め始めた頃であり、英語科としても、将来の英語教育の方向性を考えた時、必ず必要になると判断したので、T-Tに加えてインターネットを授業でどう活用するかということ、英語科のテーマの1つに加えた。

英語科としては、平成7年の自主研究発表会の席で初めてインターネットの使用とT-Tとを組み合わせて発表し、その後このテーマ(イン

ターネットの使用とT-T)を継続して追求している。

### T-Tとの関連について

T-Tの形式を英語の授業に取り入れて13年目になる。兵庫県下の中学校では最も早く学校専属のALTが配置されたのが上郡中学校であった。ALTとのT-Tが成立するためには日本人英語教師が行う授業がきちんと成立していることが前提条件としてある。そしてこのことはインターネットを使う場合でも同じである。あくまでもインターネットの使用は「動機付け」であり、生徒が英語に興味を持って学習するための道具であって、それが目的ではない。とはいうもののALTがいることでインターネットを使った授業に「厚み」が加わるのも事実である。具体的な関連について以下のようにまとめてみた。

アメリカから送られてきた電子メールや音声ファイル(後述)の中にあるup-to-dateな表現の解説がALTによってすぐになされるので生徒は新しい表現をすぐに知ることができる。

アメリカの生徒の表現の裏にある文化的背景をALTのおかげで知ることができる。(ChristmasやHalloweenの意味など)

日本から返事を出す時の文章や音声ファイルの内容の推敲をALTにしてもらい、日本的発想の文章から自由になること。

以上をまとめてみると、ALTとインターネットの使用が相乗効果をあげて、生徒の英語に対する興味・関心をずいぶん押し上げる働きをしているといえる。

**e-mail**と音声ファイルを利用した実践  
現在上郡中学校では、2・3年生から1クラ

スを選び、e-mailと音声ファイルの交換を前述のワシントン州の中学校とハワイの高等学校を結んで行っている。

#### (1) e-mailの活用方法

文法事項定着のための一つの方法として

授業で新たに文法事項を習った後、生徒は普通、練習問題でその知識の定着をはかる。教科書や問題集に載っている問題は時として一般的な文章で、生徒の生活実態と離れているため、結果として生徒はあまり興味を示さないことがある。その時にもしアメリカの友人から生徒個人宛に電子メールが来て、しかもその中についていたが習った英語の文法事項が入っていたとしたら、生徒一人ひとりはおそらく、大変な興味を持ってその文章を読もうとするに違いない。また事実はその通りで、生徒が興味を示すその状態はまさに凄いものがある。そのためには前もって、アメリカの担当者と事前に打ち合わせを行っておくことが必要である。過去に行ったものとしては、「過去進行形」「受動態」「分詞の後置修飾」等がある。

#### 自己紹介

電子メールを最初にやりとりする時は、通常、生徒にとって書きやすい自己紹介を生徒に行わせている。生徒達は(日米共に)名前、年齢、自分の家族構成、学校生活の様子などについて記述しあった後で、2回、3回と回を重ねる度にいろいろなトピックについて話を展開してゆくのが普通である。この自己紹介の文を書くときはまず、自分が男であるか、女であるかを明確に書いておくように指導する必要がある。こちらの生徒の名前だけでは性別がわからず、しばしばAre you a boy or a girl?と質問されたからだ。

#### テーマを設定しての意見交換

日米双方で共通したテーマをあらかじめ設定しておいて、それに対して意見の交換を行う。これまで、「学校の制服」「クラブ活動」「時間割」「学校での掃除」等のテーマを取り上げた(p.4を参照)。アメリカの学校生活では、掃除はなく、宿題も少なく夏休みは長いことなどを知らず、上郡中学校の生徒達は随分びっくりし

ていた。

#### (2) e-mailの利点

##### writingの動機付けとして

生徒は自分の意見を英文になおしてアメリカの友達に送らねばならないのであるから、必死でwritingを行い、質問も自主的に行うようになる。

##### 辞書を使用する動機付けとして

自分の表現したい文章や単語を自主的に辞書を引いて生徒は調べるようになる。もともと、勉強はその裏側に、それを必要としているものがあって、はじめて成立するものであるから、生徒にすれば、自分の返事を完成させるという極めて強い必要性があるので、誰に強制されるでもなく、自然と辞書にむかうことになる。いわば辞書引きというニーズが目前に出てきているからである。勿論、自分の所に来た英文を訳す必要があるので、英和・和英の両方の辞書を使わねばならないので、英和・和英辞書の使用の絶好の訓練になる。

##### 読む力の育成として

生徒は自分宛に来たメールの内容を読みとってから返事を書くのであるから、自然に内容を精読するようになる。興味をもって読むので、大変な集中力を発揮する。

教科書に載っていない「生きた英語」の表現にふれる

教科書には載っていないけれども、会話や私的な文章で頻繁に使われる表現を知り、生きた“ホットな”英語を知ることができる。いわば普遍的なものであらねばならない教科書の宿命である「一般的な、しかし面白みのない」表現を超える表現が味わえることになる。言葉は刻一刻と変化するものであるということが如実にわかるきっかけになる。勿論、指導者はALTや現地のアメリカ人と連絡を取ったり、TIMEなどを読み、新しい表現を知っている必要がある。

##### アメリカの文化を背景として感じる

メールのやりとりを通して、同年齢の人間同士が同じフィーリングで言葉の裏にある文化を表現などを通して感じるができる。

### (3) 音声ファイルの活用方法

音声を録音できる機能のついたソフトを使って音声ファイルをつくり、e-mailに添付して「声の便り」のやり取りも実践している。交流相手の生の声をコンピュータを通じて聞くことで、e-mailよりもより一層の臨場感が得られる。この点でe-mailより音声ファイルの方が学習の動機付けが強くなるといえるだろう。また相手の声にくめられたメッセージをつかもうとする姿勢が、リスニングの強化につながる。

### (4) 音声ファイルの利点

#### リスニング力の養成

上でも触れたように、海外の友人の「声」が直接送られて来て、それを聞くことになるので、集中して聞き取らねばならず、自然にリスニングの力がついてくる。これは漫然とテープを聴くよりも数倍の効果があると考えている。

#### コミュニケーションの臨場感を味わう

e-mailと比較してコミュニケーションの臨場感が出てくる。e-mailが静かな対話だとすると、音声ファイルは動的な対話といえる。

### (5) e-mailと音声ファイルの活用の課題

e-mail, 音声ファイルともに、相手国の生徒の人数の関係で対象のクラスが1~2クラスしか選べないので、該当しないクラスの生徒からはやや不満の声がでていいる。これについて

はいまのところ大きな問題にはなっていないが、将来の大きな課題である。相手国の生徒の確保という問題は対人的な問題であり、すぐには解決の見通しが立っていない。

e-mail, 音声ファイルともに授業の中でカリキュラムの中に位置づけたいが、 で書いたように相手国の関係もあり、なかなか全校的に英語科のカリキュラムに位置づけることができていない。特定のクラスでの実践にまだとどまっているうらみがある。

### (6) 教科書の題材と関連させる

e-mailなどを通して交流する際、文法事項の定着に配慮するとともに教科書の題材をテーマにすえることもできるだろう。NEW CROWN 2, Lesson 4, Computers in Future Schools を例にあげると、まず、コンピュータが現代社会でどのように使われているかプリントやビデオで学習する。Section 2の内容に合わせて教師と生徒が実際にe-mailを使って課題学習などについてやり取りをし、仮想のネット学校を体験する。この体験を元に、コンピュータやインターネットについて班別に意見をまとめて発表する。また議論を深めるために討論に発展させてもよいだろう。

上の例は構想であるが、インターネットを利用して交流する際に教科書とどのように関連させていくかということも今後の課題の1つである。



どんな内容かな？(e-mailを受け取って)



やや緊張します。(音声吹き込む)



先生のスキットを聞こう(T-T授業より)



今日の表現を使ってみよう(T-T授業より)



何を言っているのかな？集中！  
(届いた音声ファイルを聞く)

## まとめとして

ALTの存在とインターネットの使用を通して生徒達はどんな力を獲得しているのだろう。以下に考察を書いてみたい。

外国，とりわけアメリカ合衆国という国に親近感と興味を持ち，将来実際に外国に行くという気持ちを強くしている。

いたずらに外国人崇拜の気持ちを持たなくなっている。日常的に接していることで同じ人間であるということを皮膚感覚で知ようになっていく。(異文化理解の基礎的資質の形成)

アメリカの中学生のメールを読んだり，声を聞いたりすることで英語のネイティブでさえ，ひんぱんに間違いをしているとわかり，語学で

は間違いを犯すことは決して恥ずかしいことではないと分かってきていること。

英語を使うことをenjoyするようになったこと。

英語の背景としてある外国の文化に興味を持つことが多くなっている。

との関連で外国人を見てもいたずらに緊張したり，身を避けたりしなくなっている。

以上，やや我田引水的なところもあるが，上記のような力を生徒達が獲得していると思う。今後もこのようなことを念頭におきながら英語教育を進めてゆきたいと思っている。

(これは上郡中学校英語科全体で行われた実践の記録である。)

### <テーマを設定した意見交換の事例>

\* 西村さんとCharlie Galdwell君の例(制服と夏休みについて)

Hi Charlie. How are you? I like my school and I have to wear uniforms when I go to school. Do you have a uniform? Do you like to wear school uniform? I have a lot of homework during the summer vacation and I have to finish it by the 30th of August. I sometimes go to school during the summer. Please write back soon.  
>From Nishimura

Dear Nishimura

Hello. How are you? I can't believe that you like school. I hate school. We don't have to wear uniforms though. We don't have uniforms so I don't know what to say about uniform. But I am interested in school uniforms. Some of the private school students wear uniforms. Do you like uniforms? We also don't go to school during the summer. You go to school during the summer, don't you? What do you do at school? I don't know anything about Japan. What is it like in Japan?  
>From Charlie Galdwell

\* 吉田君とTristan Lindell君の例(宿題と制服)

Hello Tristan. Do you have a lot of homework at school? And do you have school Uniform at school? I don't like school uniform and I don't like homework too. I want to wear some private clothes at school. Write to me soon.  
>From Yoshida

I'm fine. I have a lot of homework too. My school does not have any uniforms. I sometimes think about uniforms but I don't know if I want to put it on or not. Do you think uniform is cool? I don't like homework, either. Do your teachers give you a lot of homework? The picture of my family will be in the mail when I get

them. I'll talk to you later. I am not feeling very well today so my letter is short.

>From Tristan Lindell

\* 身野さんとEric Hinderager君の例(制服について)

Hi. We don't have school uniforms in America but I don't think I would like them either. During summer we go camping a lot. Do you know where the Columbia River is? We go camping there sometimes.  
>From Eric

Hello Eric. Thank you for sending me the letter. We have to wear uniforms at school. We have strict school rules and teachers are strict about the uniforms. I like uniforms but Sometimes I want to wear school uniform and sometimes I don't like to do. I know just the name of Columbia but I have never been there. I like to go there someday.  
>From Mino

\* 山本君とJessica Allardさんの例(部活動について)

Hi Jessica Allard. I belong to the baseball club and I play baseball every day after school. The practice is very hard and sometime I don't like to play it so hard. Do you like to play some sport?  
>From Yamamoto

To Yamamoto

You play a lot of spots. I don't only in gym class but I love every sport except basketball. I wish I had a car because then I would be driving myself to school and every other place that I would like to go especially to my friends house. After school we go back home soon and join other club teams. Please write to me again.  
>From Jessica

(名前を一部削った他は、原文のまま掲載しています。)

三省堂英語教育・中学別冊

2001年4月1日発行

編集・発行人 渡辺孝映

発行所 株式会社三省堂

〒101-8371 東京都千代田区三崎町2-22-14

電話 03(3230)9421

電子メール newcrown@sanseido-publ.co.jp

ホームページ <http://www.sanseido-publ.co.jp/>